

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方の困り事に気付く事が大切であり、理解し、より良いケアの方法を行っています。その人らしく生活続けることが出来る様に支援しています。	本社理念の「人生の最後まで笑顔で元氣な暮らしを支えたい」個々のニーズの尊重・親身な対応」をもとに作成した、元氣ホーム北松戸独自の理念を玄関、各フロアーに掲示し共有を図っています。職員との理念の共有は日常の朝礼や会議を通して行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症が5類になる事をふまえて、地域で開催された防災訓練に行きました(令和5年、4月)今後、祭りや公園での盆踊りに参加する予定です。	町内会に町会費を納め、加入していますが、コロナ感染予防対策のため、数年間、町会行事への参加は控えていました。今年に入り、緩和状況となったため、4月に開催された防災訓練に参加しました。今後は各種行事への参加を再開する予定としています。	コロナ感染予防対策の緩和に伴い、今後は予定通り、町会行事への参加を実施して、施設及び利用者の交流をさらに緊密にしていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 https://bit.ly/3HQQs6b	ボランティア受け入れによる交流。夏祭りでの介護・健康相談会を連携する訪問看護ステーションの協力を得て開催。地域ケア推進会議へ管理者が参加するなど。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症により書面で開催をしていましたが5月から施設で会議を行います。サービスの向上の為の意見交換や、活動状況、事故報告を行います。	年6回の運営推進会議を実施しています。メンバーは自治会長、地域包括センター職員、民生委員、近隣住民、利用家族で構成されています。令和4年度はコロナ感染予防から対面での開催はなく、運営推進会議報告書を作成し、メールで発信しています。	令和5年度は対面での会議を行い、利用者満足度向上に向け、活発な意見交換が行われることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護の情報を知らせてくれる松戸市のケア倶楽部の活用をしています。又グループホーム協議会の研修に参加しました。松戸市の認知症ガイドブックを参考にしています	松戸市からのケア倶楽部の介護情報を受け、日常の活動へとつなげています。また、市が作成した「グループホームにおける運営指導対策、設備、運営に関する基準について」の資料を活用するなどの連携を取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やカンファレンスの時に、身体拘束をしないケアが出来ているか、確認しています。委員会より、不適切ケアや虐待について、具体例をあげ説明して、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束については職員会議やカンファレンスで取り上げ、職員への周知を図り、防止に努めています。非常口は施錠していますが、非常ボタンと連動し、解除される仕組みとなっていて、屋外にスロープを使い避難することが出来ます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルの作成と研修の実施。虐待の原因となりうる利用者の激しい症状についてはカンファレンスで重点的に取り上げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人との定期的な面会を行っている。管理者は成年後見制度について学習を行っている。入居者の希望による外部への連絡に対応している。個人的な買い物に対応しているなど。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項読み合わせ、質問への回答を丁寧に行う様心がけている。料金については最大でかかりうる額や外部サービスの料金の目安を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により運営推進会議は書面で開催していましたが、意見や要望等は電話でお知らせを下さいと知らせています。コロナ感染者が減少していますので5月からは運営推進会議をホームで開催する予定です。	家族からの運営に関する要望には面会時に直接口頭や電話などで受け対処しています。利用者からの要望は可能な限り実現します。例えば利用者からの要望を受け外部で行われる「カラオケサークル」や「マージャンの集い」などへの同行支援を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議で運営について話し合っています。(3ヶ月に1回)又個別面談を設け、意見や提案を聞く事をしている。	本部管理者が職員との面談を3か月に1度設け、意見や要望を聞き取ります。施設長は本部幹部が兼務し、日常的に施設設備に発生した不具合の修理や車いすの補充など、職員からの要望に速やかに対応し、所内の円滑な活動環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働について、正当な理由による申請は事後であっても承認している。また無理な長時間勤務にならない様管理者からの声掛けを行っている。資格取得の奨励とシフト・費用の両面で支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の奨励(案内の掲示、希望者のシフト調整、費用の全額または一部支出)。新規職員は最低1か月の間増員体制で研修を行い、延長する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数の同業他社と運営推進会議の相互参加を行い、交流している。 (令和3年度は、新型コロナ禍により運営推進会議は書面での開催とさせて頂いております。)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前の自宅訪問や入居直後に家族の面会を増やして頂く様な働きかけを行っている。入居間もない方へは特に多く声掛けを行い、不安がないか聞き取る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にはより頻繁に家族と連絡を取り合っている。過去のエピソードを聞き、家族が行っていたケアを一部取り入れている。本人の家族に対する思いを聞き取り、仲立ちすることもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の介護計画はそれまでのものを概ね引き継ぎつつ新しい環境での変化を見極める様にしている。これまでと同じ医療機関へ通院したり、その時必要な専門科を受診できる様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアの方針に一方的な保護者にならないようにというものがある。弱みのない完璧な指導者として振る舞わず、利用者と助け合って生活を営む形を意識してとる様にしている。できる家事は行っており、感謝と尊敬の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会がない家族もあるが、年賀状や暑中見舞いを本人と一緒に書くなどして最低限の交流を試みている。コロナ5類以降はご面会の機会を増やしたい方針です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩の際に近隣の方々への挨拶を心がけて顔馴染みになっています。希望に応じて家族や友人に手紙や電話の援助を行います。	利用者が買い物でのコンビニ店員や、散歩での近隣住民と挨拶を交わすなど、馴染みの関係を作り、交流出来るよう支援を行っています。また、家族や友人への手紙の作成や電話をかける際の手伝いで、大切な人との関係が保てるよう、支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要なケースでは他の利用者との関わりの援助を介護計画に入れている。孤立しがちな人はより活動へ誘う様にする(無理強いはいしない)。ひとつのことへ共同で取り組む機会を多くとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫婦で入居され、夫だけが退去されたケースがあり、退去後のご連絡やご面会を行った経緯があります。今後も同様のフォローが必要なケースには柔軟に対応致します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動を観察し、言動聞いて、本人様の思いを知り、分析を行っています。ご様子は個人介護記録に記入しています	職員は意思疎通の困難な利用者には丁寧な対応を取りながら思いをくみ取り、話しかけは目線を合わせ、ゆっくりと行います。また、時には言葉の他に主にジェスチャーを交えながらコミュニケーションをとることもあります。個別の利用者の様子や健康状態については申し送りノートを活用して共有を図り、全職員が把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や電話で随時ご家族等からの聞き取りを行っている。前に利用していた事業所への問い合わせも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況や能力の変化について日常の記録に記入している。カンファレンスでADLや心理状態等を確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人につき3か月に1回ケアカンファレンスを行いケアに反映されている。介護計画を作成する際、本人、家族、介護職、医療職と話し合い、より良いケアの実践をしている。	介護内容は3か月に一度のカンファレンスで見直しを図ります。内容は議事録として残し、当日欠席の職員にも伝えます。また、利用者一人ひとりの「個別支援計画書」として作成され、日常の介護活動に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌とバイタル記録、介護医療連携ノートを中心に記録をとっています。1日の申し送りを聞き取り介護日誌を読んでいる。ケア内容の検討は、カンファレンスで話し合った後行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が高齢で外出困難な場合など状況に応じて外部受診の介助を行ったり、体調不良で居室療養が必要な際はテレビの貸し出しを行うなど通常の介護業務の範囲にとらわれない支援を行っている。介護についてもその人に合ったやり方、環境づくり、声掛けなどを工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の際に近隣の方々への挨拶を心がけ、施設と入居者、職員について少しずつ知って頂ける様にしている。近隣の方々を行事や運営推進会議へ招き、災害時などに相互に協力し合える様呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医が往診に応じた場合は継続して往診の受け入れを行い、入居後の担当医(往診医)が決まっていない場合は担当医を探す支援を行っている。提携関係ではないが、医師を通じて紹介を受けられる場合もある。	利用者の約8割が入居前からの主治医に往診してもらい、決まっていない利用者は、主治医を探す支援を行っています。主に市場医院や石島医院を月2回往診利用しています。かえで歯科の週1回の往診もあります。また、元気介護サービスの元気訪問看護ステーションの24時間体制を利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携し週1回みてもらい、介護職への指導や相談も行っている。介護医療連携ノートによる共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は最低1回管理者やユニットリーダーが面会に行き病院のスタッフから近況を聞く様にしている。退院時のカンファレンスに参加させて頂ける様働きかけている。できない場合は電話連絡だけでも行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師により重度化や終末期が予見された場合には家族と医師を含めたカンファレンスを行う。看取りに関しては家族の希望を優先し、同意書を記入してもらっています。又医療職と連携しながら、行っています。	「お看取りと急変時についての希望調査票」を用意し、医師が重度化や終末期を予見した場合に、家族と医師を含めたカンファレンスを行い家族に同意書記入を求めています。利用者が穏やかに最期を迎えられるよう、日常的に「介護医療連携ノート」と「看護記録」を活用し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や災害時の避難訓練などを研修の一環として行っている。体調急変時の対応や避難誘導のマニュアルを設置している。体調が危ぶまれる方がいる場合は朝のミーティングなどでその時の状態と対処法の共有を行っている。(新型コロナ禍により熱発や体調急変時は個室対応となります。)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、消火器や、救命法の訓練を行っています。また、町内会の防災訓練にも参加しています。	火災や地震などに対応する消防・防災マニュアルを整備しています。コロナ禍のため、消防署の立ち会いはありませんでしたが、自主避難訓練として初期消火・通報・避難訓練を行い、直近では今年の4月に中和倉連合町会主催の防災訓練に職員と利用者3名が参加し起震車体験をしています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格とプライバシーの尊重を基本に否定しない言葉かけを行うようにしています。	「千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止」研修に参加し、人格とプライバシーの尊重を基本に否定しない言葉かけを行うようにしています。研修内容は全職員が周知しています。職員間の申し送りの会話内容は、利用者が不快感のないように声量や表現に注意を払い、利用者が聞いていることもあるので言葉遣いにも配慮しています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活サイクルの中で食事や入浴の案内誘導は行いますが強制は致しません。時間を置いて状況を変えたり、飲食であれば一部品目変更等を行い柔軟に対応します。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜中にテレビを見たり昼寝をしたりとその方の生活リズムや希望に合わせた行動がとれる様にしている。その人の生活に職員が合わせる方針になっている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを行う場合、できるだけ一緒に選んで頂く様にしている。昼間と夜を過ごす衣類はできるだけ着替えて頂く様にしている。訪問理容のサービスを受けられる様にしている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前、食事メニューを読み上げ、食事に対し楽しみが持てるようにしている。利用者と野菜を切ったり、盛り付けを行ったりする機会を月一回行っています。(食事会)おやつも手作りをしています。	職員は毎回食事メニューを読み上げ、利用者が食事に対し楽しみが持てるようにしています。月1回利用者の希望を伺い、調理師と一緒にやつ作り(ケーキやゼリーなど)、職員とお好み焼きやカステラ作りを楽しみ、また利用者が野菜切り、盛り付けなど個々のできることを支援しています。普段は利用者の能力に応じた(食器やお盆拭きなど)支援をしています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量を毎回記録し月1回体重を測っている。訪問医が年1回以上血液検査を行い栄養状態を観察している。食事形態・食器などはその人の能力や習慣に合わせて設定している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを全員行っている。週に1回歯科医院の往診があり、歯科医師と歯科衛生士による機能訓練を含めたケアを行っている。診察結果やケアの指示は記録ノートで共有している。義歯は毎日洗浄液に漬けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を理解しトイレの利用を支援しています。又失禁しやすい方は排泄のサイクルを観察し、予想されるタイミングで声掛けや介助を行っています。(オムツを減らす為)陰部清浄をこまめに行っています。	毎日の「排泄記録」で個々の利用者の排泄パターンを理解しできるだけ無理強いしないでトイレでの排泄ができるよう支援しています。失禁しやすい利用者に対しては行動や仕草などのタイミングを見て声かけや介助を行い、失敗した利用者には優しい声かけで、脱衣室に用意した陰部洗浄一式を活用しトイレにてこまめに行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎週の看護師巡回で便秘などの対応について相談・指導を受けている。下剤の調整は医師・看護師の指示を受けて実施。便秘のある方は排便の記録をとり観察して薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、入浴している。(1人30分程度)入浴の嫌いな方は、時間をずらしたり、声掛けや誘導の仕方を工夫して、入浴しています。	「週間計画表」と「介護業務日誌」に記録し、週3回30分程度の入浴を支援しています。リフト浴の利用もあります。入浴を嫌がる利用者に対しては時間をずらしたりシャワー浴に変えたり、また、個々に合わせて、歌を歌いながら脱衣室へ行くことやドクターによる健康観察があるので綺麗にしましょうなど誘導の仕方を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝遅い方や夜間なかなか寝付けない方などに合わせ、起床や食事の時間は個別に支援できる様にしている。不安などでなかなか寝付けない方には安心できる様な環境や働きかけと、医師・看護師との連携で支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用中の最新の薬の説明書を個人ファイルで管理し、いつでも見られる様に整備している。介護医療連携ノートで薬剤師からの情報も共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いろいろな遊び、制作活動、作業などを用意している。個別の趣味活動が継続できる様に用品を一緒に買いに行くなどの支援を行っている。希望する食べ物やご家族の方が持ち込まれた食べ物や召し上がって頂ける様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は週3回程出掛けるようにしています。新型コロナ禍で外食や遠くに出掛ける事を控えていましたが、今後出掛ける予定です。家族と利用者との外出も徐々に支援していきます	日常的には週3回ほど近所や運動公園までの散歩を楽しんでいます。今後は、少しずつ外食や遠出を再開して行く予定です。家族との外出や外食も出来るよう徐々に支援していきます。現在、家族が居室を訪問することは自由にできています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談、同意を得た上、希望する方はお金を持っています。以前はコロナ禍で買い物を行っていなかったが、5月から自らのお金で買い物をするようにします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いとして定期的に手紙を出す支援をしている。電話を希望する方には相手と相談の上可能な場合は利用して頂いている(繰り返し同じ内容を言われることが多いため)。受け取った手紙は紛失に備えてコピーをとり、原本をご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに入居者と一緒に作った壁飾りを飾ることを習慣的に行っている。日中はカーテンを開け、開放的な景色が見られる様にしている。トイレにも暖房を用意し、失禁で着替える際などに使用。申し送りの会話内容で不快感の無い様に、声量や表現に注意する。	フロアにはテーブルが数箇所にゆったりと配置され、大きな窓のカーテンを開けて、開放的な景色が見られるようにしています。季節ごとに職員と利用者が一緒に壁面装飾(桜の木、誕生日表、鯉のぼりなど)を習慣的に行っています。BGMとして童謡を流したり、夕方からは歌集を用意して童謡や懐メロをみんなで歌うなど居心地よく過ごせるような工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす方のためにとこころに椅子やソファを配置している。食事の席はその時の関係性や認知症の状態に合わせて職員間やご本人と検討し変更する場合がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に好きなもの、いつも持ち歩いていた者を持って来て居室に置いてあります。	利用者本人が自宅で使い慣れたベッド、タンス、カーペット、テレビ、ラジカセなど特に制限なく持ち込んでいます。各居室にはカレンダーがあり、飾りボードには誕生日の色紙(写真や似顔絵)や塗り絵、習字、運動会のメダルなど沢山の制作物や作品が飾ってあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名前やマーク、自身の塗り絵作品などを居室の目印にしている。自分で洗濯ものの取り込みができる方向けに部屋干しができる様になっている。食事や入浴の時間などを気にする方向けに貼り、必要に応じ声掛けしてケアに活かしている。		